

風 からの (現場) ファールド

宮田守男

今日で5月も終わる。定年退職で仕事も肩書もなくなり、意欲が無く無気力な状態などが続き1カ月ほどで現れる「定年5月病」が話題になっている。

医師の和田秀樹さんの著書『70代からの元最大最強「かくあるべし思考」から完全に開放され」なにも遊ばず半分と、胸を張って無責任のまま生きればいい』70代は自由の時代、地域の活動だとして、ボランティアだとして、自分がやりたいと思ったらやればいい』と70代人生の理想を記述している。だが多くの70代は生活費を賄える年金支給額を得られず、物価高騰に日々の生活に懸念を抱く日々だからこそ、これまでの価値観や人生観を引きずらない生き方を考

える事も大切だと思いたいものだ。

カール・ヒルティの『幸福論』に「まず何より肝心なのは、思い切ったやり始めることである。しかし、足りないものがあるからと準備ばかりしている人

これまでの価値観や人生観を 変える生き方が求められている

が多い」と。日本のことわざに「思い立ったが吉日」がある。また室町時代に道徳的なことを和歌に詠み込んだ詩に「知らぬ道知ったふりして迷うより聞いて行くのがほんの近道」に習い、まずは

親しい仲間と語り合う事から始めてはどうだろうか。

5月中旬にJR東日本・東海が7月1日く9月30日の92日間の夏の臨時列車運転計画を発表した。注目は週末を中心に松本・白馬間

も。長期滞在者には長野県の魅力も伝えられる。

に特急「はくば」が運転される事だ。これにより新宿駅を午前7時に発車する「あずさ1号」から乗り継ぐことができる。特急の白馬延長運転が難しい時に、この特急の運行が松本駅からの利便性を

向上させるに違いない。

また、年間を通じて土曜日・日曜日を中心に長野駅から南小谷駅間を運転する快速「リゾートビューふるさと」については、この夏も毎日運転する期間



65回目の北安曇郡スポーツ祭。全種目参加は池田町のみ。開催意義を考える時期だ

る良い機会でもある。運転日は少ないが新宿・白馬間に特急「アルプス」が、名古屋・白馬間に臨時特急「1号」の81号」が運転される。かつて東京エリア出張のおり良く乗車した夜行列車・急行「アルプス」の当時は懐かしむ。大北地域はJR東日本・西日本・東海からの列車が乗り入される強みを持つ観光地だ。これらの列車の利用増進を積極的に行う

ことで、今後更なる臨時列車の増発こそが世界リゾートを目指す交通体系に違いない。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)